

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果（公表）

公表:令和 5 年 11 月 20日

事業所名 こぼんはうすくら 運河駅前教室

保護者等数(児童数) 9(11) 回収数 9 割合 100 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応	
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	9				余裕があると思います。	利用児の導線を考え、ぶつけやすい場所がないように整える等、定期的に確認していきます。	
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	8			1	手厚く見ていただいていると思います。	定期的な職員の研修会や勉強会等の開催を続け、職員の教育に力を入れていきます。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	8	1			子どもがわかりやすいような工夫がしてあると思います。	利用児に合わせた環境作りを心掛けていきます。わかりやすい絵をつけた表示や、室内の掲示物等も、工夫していきたいと思っています。また、利用児の導線を考え、ぶつけやすい場所や、怪我をしやすいものがないか等、日々安全を考えた環境作りをしています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	9				しっかり掃除されています。	毎日の清掃、週ごとの清掃等、チェックリストを用いて、抜けがないよう、清掃をしていきます。また、コロナやインフルエンザ流行期には、毎日使ったおもちゃや絵本等の消毒作業もしていきます。	
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	5	1		3	まだ入ったばかりで、初めての計画しか見ていません。	児童発達管理責任者だけの意見とならないよう、職員間でのカンファレンスや、保護者や、利用児とのコミュニケーションを大切にしています。	
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	8			1			
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	8	1					
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	8	1			毎回楽しいプログラムで、楽しみにしています。	プログラムは、その季節に合わせた活動を心掛け、食育では、旬のものを取り入れるよう、工夫をしています。イベントや行事等は、曜日に偏りがないよう、各曜日の利用児が楽しめるよう、計画していきます。	
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	3	1	2	3	コロナの時代で仕方ないと思います。	以前から、他の幼稚園等と関わる機会を計画することができません。近隣でもまだコロナやインフルエンザ等の流行が続いている状況ですので、もう少し状況が改善した後、今後の課題として検討していきます。	
保護者 への 説明 等	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	9				契約時に丁寧な説明を受けました。	契約時に児発管が書面をお渡ししつつ、説明をさせていただきます。その後も、利用者負担額等が変わった時には、書面を作成しなおし、都度ご説明します。	
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	6	3			支援計画を見せていただきながら、丁寧に説明をしていただき、わかりやすかったです。	保護者様にわかりやすいよう、支援計画を示しながら説明をさせていただきます。計画作成時だけでなく、必要があれば、都度ご説明させていただきます。	
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	1	3	1	4			
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	9				お迎え時、先生とお話ができて、説明していただいています。	何か追加でお話する必要がある場合は、職員と連携しつつ、児童発達支援管理責任者よりご連絡させていただきます。また、モニタリング時に限らず、ご要望があれば、都度お電話でのご相談や面談をさせていただいています。	
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	7	1			まだ入って間もないので機会がありませんでした。	半年に一度のモニタリング以外でも、心配事があった場合等、都度お電話や面談をさせていただきます。	
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか			1	6	2	コロナの影響で今の時期は開催がなくても仕方ないと思います。	コロナ前は保護者会を行っており、好評でしたが、コロナ禍でできなくなっていました。また近隣のコロナやインフルエンザ等の流行状況が落ち着き次第、計画をしたいと思っています。全員が集まれる広いスペースはないため、数回に分け行うなど、計画をしたいと思っています。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	9					悩みがあると、先生方にご相談をさせていただけるので心強いです。	お迎え時にお話しすることもできますが、お迎えが重なるなど、ゆっくりお話しできない場合もありますので、ご相談があった場合は、後ほど児童発達支援管理責任者よりご連絡させていただきます。
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	9						
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	9					手紙に写真があり、様子がわかって嬉しいです。毎回楽しみにしています。	「こぼんはうすくらだより」にて、行事等のプログラムを記載しています。「こぼん通信」では、前月の行事等の様子を写真付きでご紹介しています。今後も、様子がわかるような手紙を発行していきたいと思っています。
	19 個人情報の取扱いに十分注意されているか	9						
非常時 等の 対応	20 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	8	1			書面でも説明があり、訓練もいただき、ありがとうございます。	避難訓練の様子も、こぼん通信等でご紹介していきたいと思っています。また、遠足で防災センターに行ったこともありますので、また計画したいと思っています。	
	21 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	9					定期的にプログラムに入っています。	定期的に避難訓練をプログラムに入れています。利用児もスムーズに動けるようになってきているので、引き続き、指導していきたいと思っています。
満足 度	22 子どもは通所を楽しみにしているか	9				毎回とても楽しみにしています！	楽しみながら療育に繋がるようなプログラムを計画していきます。曜日ごとに偏りがないよう、バランスの良いプログラムを組めるよう、気を付けていきます。また、個々の発達に合わせた療育ができるよう、利用児の発達状況を見極め、無理のない有益な療育ができるよう、心がけていきたいと思っています。	
	23 事業所の支援に満足しているか	9				大変満足しています	今後とも満足いただける支援を続けられるよう、職員間で連携し、療育をしていきたいと思っています。	

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 5 年 11 月 20日

事業所名 こぼんはうすさくら 運河駅前教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		広めに作っている。人数が少なく、広すぎる時は、気が散らないように、活動によっては仕切りを入れるなど工夫している。	開所してたので、まだ人数が少ない日もあり、有効な療育になるよう、利用者を増やしていく。
	2 職員の配置数は適切であるか	7		基準より多めに配置をし、質の高い支援をしている。	職員の体調不良等の急な欠員が出た場合に対応できるように、事前に体調確認をし、補充をしていく。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7		視覚的な配慮として、イラスト入りの表示や、立ち位置の表示等をしている。	全体的なものではなく、個々に合わせた表示もあってもいいかもしれない。職員同士で意見を出し合い、今後も改良していきたい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7		活動に合わせてスペースを使い分ける。	自由に遊ぶスペースでできる支援のアイデアを増やす。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7		定期ミーティング、日々の終礼での振り返り等で、情報共有、目標設定をしている。	目標設定や、具体的な支援方法を話し合う機会の増加を目指す。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		毎年のアンケートを実施し、保護者様から出た意見などは共有している。	現場の職員からの情報が上がりやすい環境づくりを目指す。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		アンケート集計後にこぼんはうすさくら本部のホームページに公開している。	評価結果や方針が職員で共有できる環境作りをする。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7		こぼんはうすさくら本部のSVよりご指導をいただいている。	全体で参加できる勉強会を開催する。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		各種研修の費用負担、時間の確保をしている。	日常の支援に対する事例検討の機会を更に増やしていく。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7		児童発達支援管理責任者が行っている。個人ファイルに記録をまとめ、職員も共有できるようにしている。	ニーズや課題を解決していく支援内容を児童発達支援管理責任者とより密に相談していくようにする。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7		こぼんはうすさくら本部が提供したものを使用している。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7		ガイドラインを基に、支援計画、プログラムを作成している。	現場の職員がガイドラインに沿った意図を理解し、日々の支援にあたるよう、職員にプログラムの目的を説明する時間を作っている。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7		リーダークラスの先生と、児童発達支援管理責任者で全体的なミーティングをし、毎日の支援の前に朝礼で確認をしている。	目標や意図を確認することを徹底する。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	7		定期的なイベントでは、職員も企画、準備にかかわっている。	準備等の時間の確保が課題。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		新しい制作物や外出プログラムの情報集め。	リーダー同士の支援内容も共有できると良い。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	7		管理者と児童発達支援管理責任者中心にプログラムの計画を立てている。	集団遊びの種類や内容の充実。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		朝礼、昼礼を行い、支援の内容、役割分担を確認している。	より具体的に明確な指示を出せるスキルの向上をする。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		振り返りノートに記録し、その日にいなかった職員にも内容が伝わるようにしている。	文章ではなかなか伝わりにくい部分も伝わるよう、必要事項があれば、次の日の朝礼や昼礼等でも確認をする。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		連絡票、日報、週報、振り返りノートで記録をしている。	支援の検証、改善についての相談ができる機会を更に増やしていきたい。
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7		半年に一度モニタリングを実施している。	モニタリングの報告の資料を確認できる時間を設けていく。	
関係機関や保	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		児童発達支援間責任者が参加し、支援に必要な事項は共有している。	参加した担当者会議の記録を職員と共有していく。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7		児童発達支援管理者が参加し、支援に必要な事項は共有している。	参加した担当者会議の記録を職員と共有していく。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	対象外	対象外	医療ケア児の受け入れはしていない	医療ケア児の受け入れはしていない
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	対象外	対象外	医療ケア児の受け入れはしていない	医療ケア児の受け入れはしていない
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		児童発達支援管理責任者が各施設を訪問、担当者会議、電話等で情報共有している。	児童発達支援管理責任者以外でも、コロナ前は特別支援学校などの見学が出来ていたので、そういう機会が再開したら、職員も参加できる機会があれば理解が深まると思う。

護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		児童発達支援管理責任者が各施設を訪問、担当者会議、電話等で情報共有している。	児童発達支援管理責任者が各施設を訪問、担当者会議、電話等で情報共有している。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7		児童発達支援管理責任者が各施設を訪問、担当者会議、電話等で情報共有している。	会議の後、記録を職員と共有している。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	5	2	こばんはうすさく同士の交流や、合同プログラムを企画し、交流の機会を作っている。	外出等や、イベント等で、他との交流ができる機会を増やしていく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	7		市ごとの協議会に参加している。	職員への情報共有をしていく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		児童発達支援管理責任者が実施している。定期面談の他、要望があれば電話、面談をしている。	日常、接している職員からもその日の様子等、保護者にお伝えしていく。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7		児童発達支援管理責任者が行っている。	コロナ前は市役所などの主催のペアレント・トレーニングプログラムの案内があったが、現状はないので、できる限りの支援をしていく。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		契約時に説明、変更等がある場合は、随時説明している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7		児童発達支援管理責任者が作成している支援計画を提示しながら直接説明し、ねらいと支援内容を伝えている。	職員も共有して具体的な支援内容を相談している。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		児童発達支援管理責任者が窓口となり、対応している。職員も情報をあげるようにしている。	年長など、特に就学に関わる支援については、個々に児童発達支援管理責任者と相談し、実施している。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	3		コロナ前は実施しており、好評だった。いずれは再開したい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している			日々の終了報告の際にも申し送りができるようにしている。	伝達のもれなどがなく、連絡票の記入、確認を徹底する。
非常時等の対応	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		行事のお知らせ、こばん通信などの発行	職員ノートで通信の内容など、職員にも共有できるようにしている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7		個人アドレスの管理、データ移行の手段を気を付けている。	各職員と、管理者の取り扱いパソコンの仕分け、データ管理の厳格化。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		視覚的表示の工夫、筆談、表情のサインなど	本人の発信も促すような発言をする機会が増えるような支援、声かけをしている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	5		コロナ禍では難しい。計画はしていきたい。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7		本部の指導に沿って各種マニュアルの作成。プログラムに訓練を入れて実施。各種の災害を想定した訓練。	時代の変化もあり、不審者対応の訓練も取り入れている。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		本部の指導に沿って各種マニュアルの作成。プログラムに訓練を入れて実施。各種の災害を想定した訓練。	時代の変化もあり、不審者対応の訓練も取り入れている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7		児童発達支援管理責任者が契約時に確認している。個人ファイルで共有している。	発作時の一時的な対応を掲示している。
44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7		児童発達支援管理責任者が契約時に確認している。個人ファイルで共有している。	アレルギー確認のカードを用意している。準備する人、提供する人のダブルチェックをしている。	
45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		職員間で共有できるところに保存している。新しい記載が増えた場合は、連絡ノートに更新の通達をしている。	グループ内の他の教室でも、事例を共有し、再発防止を防ぐよう、職員の教育をしていく。	
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		代表者が研修に参加し、ミーティング中に研修の時間を取り、周知している。	家庭における事例も視野に入れ、日々の体調や外傷などを確認し、報告をしている。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7		ベルト付きイスの使用の際の事前許可と承認を得る。	ベルト付きイスからパイプ椅子でも落ち着いて座っていただけるような成長を促す支援の相談、話し合いをしていく。	